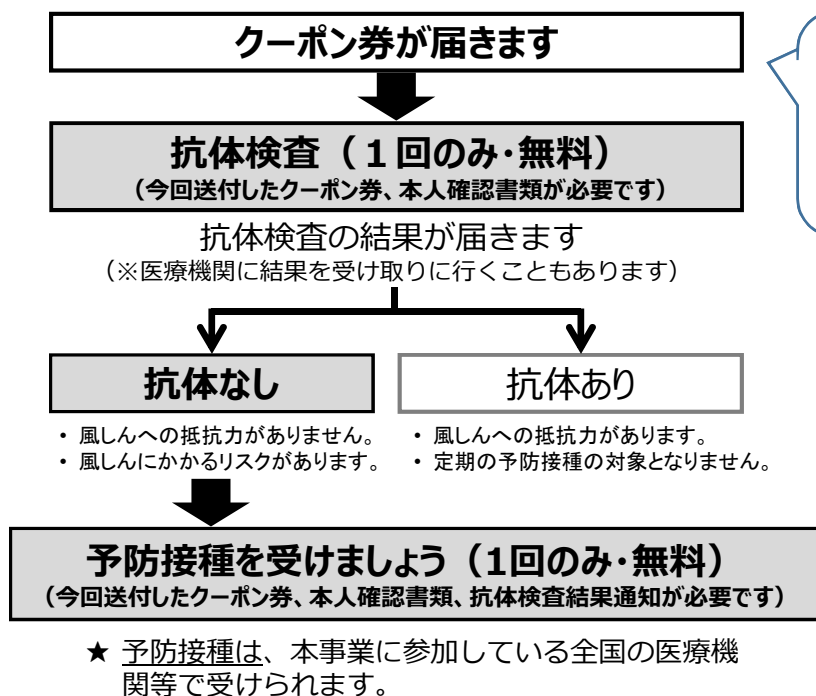


風しん抗体検査・予防接種を公費で受けられる期間が、 令和7（2025）年3月31日まで延長されました。

- ▶ 風しんの予防接種は、現在、予防接種法に基づき公的に行われています。しかし、公的な接種を受ける機会がなかった昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性（以下「対象者」）は、**抗体保有率が他の世代に比べて低く（約80%）なっています。**
- ▶ 対象者の方には、令和元年度から令和3年度にかけて、抗体検査・予防接種を公費（無料）で受けられるクーポン券を発送しておりました。今回、公費（無料）で受けられる期間が延長となったため、令和4年3月末において抗体検査の未受検者、もしくは抗体検査の結果、抗体価が低く接種対象者であっても予防接種をしていない方へクーポン券を再度お届けします。
- ▶ 以前送付したクーポン券をお持ちの方は、お手数ですが破棄していただき、今回送付のクーポン券をご利用ください。（抗体検査及び予防接種は、お一人様につき一回のみです。）
- ▶ 転入前に抗体検査済みもしくは予防接種済みの方は、公費（無料）の対象外です。

～抗体検査・予防接種の流れ～



今回送付したクーポン券と本人確認書類（運転免許証、マイナンバーカード、住所記載のある健康保険証等）を**対象の医療機関または健診会場**にお持ちになり、**抗体検査**を受けてください。
※要予約

★ 抗体検査は、

- ① 事業所健診や特定健診の機会に、その場で受けられます。
事業所健診については、勤務先にお問い合わせください。特定健診（国民健康保険加入者）については、始良市保険年金課（66-3279）にお問い合わせください。
- ② 本事業に参加している全国の医療機関等で受けられます。

★ 予防接種は、

当日の体調や基礎疾患等で受けられない可能性もあります。また、接種後、副反応が発生するおそれもありますので、必ず医師と相談してください。
裏面及び別紙の説明をよくお読みください。

**注意：始良市から転出された場合、始良市のクーポン券は使用できません。
転出先の市区町村にお問い合わせください。**

★ 抗体検査・予防接種を受けられる全国の医療機関等のリストは、厚労省HPに掲載しています。

Q どうして風しんの追加的対策を実施しているのですか？

- A 風しんは、感染者の飛まつ（唾液のしぶき）などによって他の人にうつる、感染力が強い感染症です。妊娠早期の妊婦が風しんに感染すると、出生児が先天性風しん症候群（眼や耳、心臓に障害が出ること）になる可能性があります。大人になって感染すると無症状～軽症のことが多いですが、まれに重篤な合併症を併発することがあります。また、無症状でも他人に風しんをうつすことがあるので、感染を拡大させないためには、社会全体が免疫を持つことが重要です。



風しんの追加的対策の詳しい情報については、厚生労働省のホームページをご覧ください。

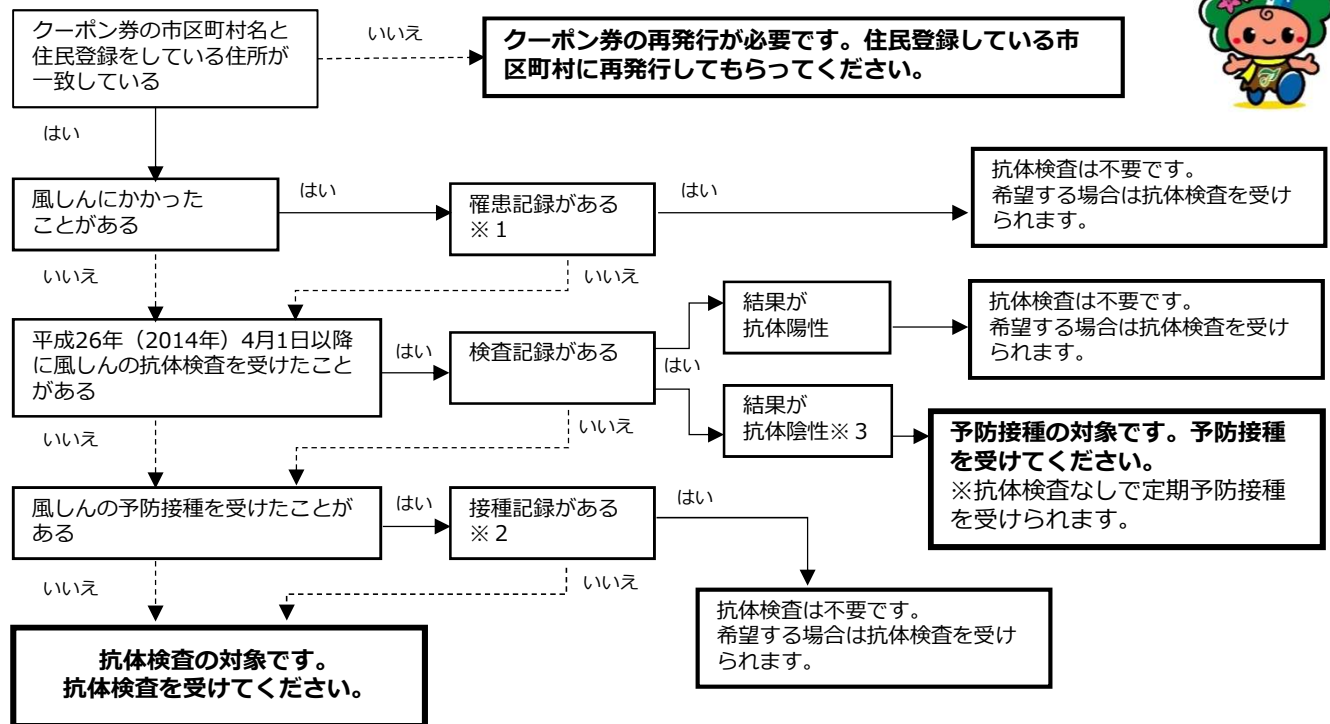
風しんの追加的対策

検索

お問合せ先 始良市 健康保険課
健康推進係 TEL55-8157（直通）

風しんの抗体検査フローチャート

対象であるかご確認ください



- ※1 ウイルス遺伝子検査（PCR法）による風しんウイルス遺伝子の検出、ウイルス分離・同定による風しんウイルスの検出、風しん抗体の検出（IgM抗体の検出、ペア血清での抗体陽転又は抗体価の有意な上昇）
- ※2 風しんの予防接種とは、風しんワクチン、麻しん・風しん混合ワクチン（MR）、麻しん・風しん・おたふくかぜワクチン（MMR）のいずれかをいう。
- ※3 抗体検査結果が陰性であるとは、「風しんの第5期の定期接種の対象となる抗体価基準」を満たすものをいう。（基準については市及び厚生労働省のホームページで確認できます。）

風しんの抗体検査・予防接種について

■ 風しん抗体検査について

風しん抗体検査は、採血による血液検査です。検査方法については、赤血球凝集抑制法（HI法）、酵素免疫法（EIA法）、蛍光酵素免疫法（ELFA法）、ラテックス免疫比濁法（LTI法）、化学発光酵素免疫法（CLEIA法）、蛍光免疫測定法（FIA法）があります。

■ 風しん予防接種（MRワクチン）について

ワクチンは麻しん風しん混合（MR）ワクチンを接種します。接種した人の約95%以上が免疫を獲得できます。麻しんまたは風しんに既に罹患したことがあっても、混合ワクチンを接種することができます。

なお、ガンマグロブリンの注射や輸血を受けたことがある方の接種時期については、かかりつけ医にご相談ください。

風しんについて

風しんウイルスの飛まつ感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間で、軽い風邪症状で始まります。主な症状は発疹や発熱、耳の後ろや首のリンパ節の腫れなどです。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。発疹も発熱も約3日間で治るので「3日ばしか」とも言われています。合併症として、関節痛・血小板減少性紫斑病・脳炎などが報告されています。特に成人で発症した場合、高熱や発疹が長く続いたり、関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。また、妊婦が妊娠早期にかかる、白内障や聴力障害などをもつ先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性が高くなります。

麻しん（はしか）について

麻しんウイルスの空気感染によって起こる病気です。感染力が強く、かかるととても重い病気、高熱、せき、鼻汁、めやに、発疹が主な症状です。最初3～4日間は38℃前後の熱があり、一時おさまりがけたかと思うと、また39～40℃の高熱と発疹が出てきます。約1週間の高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失しますが、しばらくは色素沈着が残ります。主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。麻しんは先進国であってもかかった人の約1,000人に1人が死亡するとともに重症の病気です。

副反応について

主な副反応は発熱と発疹です。他の主な副反応として、注射部位のはれやしこりなどの局所反応、じんましん、リンパ節腫脹、関節痛、熱性けいれんなどがみられます。また、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応がまれに生じる可能性もあります。

※風しん第5期予防接種の対象になった方は、始良市内実施機関一覧表裏面の「予防接種についての注意事項」もお読みください。